

## 事業名：「心の教室」相談事業

学校教育支援室参事（学校教育支援）

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実								
施策	03 青少年健全育成の推進								
基本事業	02 心のケアの充実								
開始年度	平成10年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

## 事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

悩みを抱える児童生徒、保護者、教育関係者

手段（事務事業の内容、やり方）

相談員（カウンセリング講座修了者や教員経験者など相談業務に携わった経験者）を学校に配置し、学校生活や日常の様々な悩みや困りごとの相談に応じる。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校生活を中心として悩みを抱える児童生徒、保護者、教育関係者の悩みを軽減する。

## 指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	悩みを抱える児童生徒、保護者、教育関係者数（取得困難）	人	0	0	0	0
対象指標2	小中学校児童生徒数	人	10,042	9,722	9,441	9,274
活動指標1	相談員配置学校数	校	20	20	19	19
活動指標2	延相談時間	時間	5,253	5,257	5,312	5,570
成果指標1	延べ相談件数	件	14,802	15,377	15,943	15,370
成果指標2						
事業費(A)		千円	5,521	5,403	5,526	5,660
正職員人件費(B)		千円	803	401	2,344	1,565
総事業費(A+B)		千円	6,324	5,804	7,870	7,225

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	・小学校19校に心の教室相談員13名を配置し、児童、保護者、教育関係者の悩みや相談に対応する。	・心の教室相談員報酬 5,436千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
事業を取り巻く環境変化
悩み、不安を抱え、またそれが起因して問題行動等につながる児童生徒が低年齢化している。

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

妥当である	理由 根拠	悩み、不安を抱える児童生徒の心のケアは必要であり、不登校は全国的にも市内的にも、終息に至っておらず非行の低年齢化も一層進んでいる。適切にその不安定な心と関わり、解きほぐし、導くことは教育行政の課題である。
妥当性が低い		

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい	理由 根拠	心の教室相談員は、気軽に児童生徒の相談相手となる存在である。この事業は「スクールカウンセラー事業」を補完している。
貢献度ふつう		
貢献度小さい		
基礎的事務事業		

(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

上がっている	理由 根拠	相談しやすい雰囲気づくりに努めている。
どちらかといえば上がっている		
上がらない		

(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大	理由 根拠	相談員の経験の蓄積やカウンセラー技術の向上を行うなど相談体制の充実に努めており、さらに児童生徒の悩みの軽減をサポートすることが可能と考える。
成果向上余地 中		
成果向上余地 小・なし		

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？

ある	理由 根拠	マンパワーが主となる事業内容であり、相談業務は個人情報の保護等の視点などからボランティアになじまないものであり、公的機関が実施することが期待されている。
なし		